

「豊岡スマートコミュニティ推進機構」の設立について

これまで、本市とトヨタ・モビリティ基金とは、竹野地域におけるバス路線等公共交通再編調査事業や、第0回豊岡演劇祭における超小型電気自動車「コムス」の無料貸出し等の協働事業を実施してきた。

その後、トヨタ・モビリティ基金と共創に向けた包括的な取組みについて協議を進めてきたが、5月7日、設立趣意書（資料1）に基づき、トヨタ・モビリティ基金と「豊岡スマートコミュニティ推進機構」を設立した。

1 目的

本市の掲げるビジョンである「いのちへの共感に満ちたまちづくり」、「小さな世界都市」を実現させるために、適切な技術（ICT、IoT、データ活用等）を用いて生活の心地良さを高めつつ、人々が多様性を認め、フラットでスマートにつながるコミュニティを構築する。

2 概要

- (1) 団体名称 豊岡スマートコミュニティ推進機構（略称：TSC）
- (2) 設立団体 豊岡市、トヨタ・モビリティ基金
- (3) 役員構成 代表理事 豊岡市長 中貝 宗治
理 事 トヨタ・モビリティ基金事務局長 青山 伸氏
株式会社New Stories代表 太田 直樹氏（外部有識者）
監 事 但馬信用金庫常勤理事 宮垣 健生氏
- (4) 賛助会員 金融機関、交通事業者、地域主要産業企業等を想定
- (5) 会議構成 理事会、プロジェクト組織（必要に応じ理事会の承認を経て設置）
- (6) 事務局 事務局体制は理事会の承認を得て設置（市、TMF等）

3 当面の取組み

- (1) 第1回豊岡演劇祭における実証事業
各会場を結ぶモビリティとして、既存の公共交通（JR、全但バス等）や昨年第0回演劇祭でも提供した1人乗り超小型電気自動車「コムス」に加え、新たなオンデマンド交通やシャトルバス運行など、様々なモビリティの提供を検討する。
- (2) 日高地区をモデルとしたスマートコミュニティ構想
江原駅を中心に、神鍋高原や但馬空港とのアクセス向上や、地域住民・観光客等のモビリティシェアリング、既存の公共交通と新モビリティサービスを利用可能なMaaSモデルの試行等の検討を予定している。

4 将来に向けた取組み

- (1) モビリティ関連事業
- (2) 地域産業（観光、農業、製造業、介護サービス等）支援事業
- (3) 再生可能エネルギー関連事業
- (4) 住民健康増進関連事業
- (5) 交通安全・見守り関連事業
- (6) 防災・危機管理関連事業
- (7) 次世代人材育成関連事業
- (8) 地域イノベーション促進事業
- (9) 雇用・移住促進関連事業
- (10) 豊岡演劇祭等催事関連事業 など

【参考】

1 一般財団法人トヨタ・モビリティ基金 (Toyota Mobility Foundation 略称:TMF)

2014年8月、より良いモビリティ社会の実現、モビリティ格差の解消に向けた活動を通じて社会に貢献することを目的に、トヨタ自動車株式会社が設立。理事長は豊田章男氏（トヨタ自動車㈱社長）が就任。

2 太田直樹氏の略歴

株式会社New Stories 代表。挑戦する地方都市を「生きたラボ」として、行政、企業、大学、ソーシャルビジネスの枠を超え、未来のプロトタイピングを企画、運営。ボストンコンサルティングの経営メンバーとして、アジアのテクノロジーグループを統括した後、2015年1月から2017年8月まで総務大臣補佐官として、地方の活性化とIoTやAIの社会実装の政策立案と実行に従事。2019年10月から総務省政策アドバイザーに就任（現任）。

[問合せ] 大交流課観光文化戦略室 TEL0796-21-9081